

吾妻地域【地域政策】

現状

吾妻地域は、四季折々の変化に富んだ美しい自然や温泉等、県内でも屈指の観光資源に恵まれ、年間 720 万人余りもの観光客が訪れていることから、観光と結びついた新たな農業の展開が期待されています。

当地域では、畑を中心として、耕地が標高 300 m ~ 1,400 m の間に分布していることなどから、農業形態が多様な地域となっています。

販売農家の戸数や就業人口では減少傾向が続き、同時に農業従事者の高齢化も進んでいる中で、農業産出額は野菜と畜産で全体の約 8 割以上を占めており、特に吾妻西部地域では経営規模の大きな農家や若い担い手も多いことから、農家 1 戸当たりの生産農業所得は県平均よりかなり高くなっています。

吾妻東部地域では、こんにゃくを基幹とした複合経営が主体ですが、近年では夏秋ナス、雨よけトマト、スプレーギク、観光果樹等の産地化が図られているほか、畜産公共事業の実施に伴い豚と採卵鶏の飼養頭羽数が大幅に増加しています。

吾妻西部地域においては、広大な耕地と夏季冷涼な気候等から、高原キャベツを中心とした大規模な露地野菜の栽培や酪農が営まれています。また、山間地域の生産条件が不利な地域において、高齢者が中心となった切り花・宿根草等の生産が盛んで、特産品として定着しています。



取組方向【重点推進事項】

地域と連携した観光農業や地産地消の推進

吾妻地域には多くの農産物直売所や観光農園がありますが、その更なる活性化が課題となっており、地域性を活かし、観光と結びついた農業の推進を図るために、温泉地等への地場農産物や農商工連携による新たな農産加工品の供給が求められています。

また、地域の豊かな自然・文化を活かした都市農村交流を推進するとともに、学校給食への地場産農産物の利用や農作業体験学習等を通じて、食・農業・農村への理解を深める必要があります。

農産物直売所・観光農園の情報提供や運営支援を行うとともに、観光資源との連携や立地条件を活かした PR 等の取組を支援します。

「地産地消推進店」や「地産地消協力企業」を支援し、生産者と実需者等との交流・マッチングの場を提供するとともに、地域の農林水産物・資源を活用した農産加工、農商工の連携や 6 次産業化の取組を支援します。

町村や関係団体等との連携により吾妻地域の豊かな地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの取組を支援し、地域の活性化を図ります。

学校や地域と連携し、学校給食や農作業体験学習等を通じて、子供たちなどに農業・農村の役割や食の大切さを伝える食農教育を推進します。

鳥獣被害対策の推進と農村機能の保全

吾妻地域では、カモシカ、イノシシ、サル、ニホンジカ等の野生鳥獣による農作物被害が多く発生しており、また耕作放棄地が増加していることから、鳥獣被害に強い集落づくりを進めるとともに、農地の有効利用を進め耕作放棄地の再生を図る必要があります。

特に、農地整備率が低く、このことが生産性向上や農地の有効利用面で課題となっています。また、これまでに造成された農業水利施設や農道等の老朽化が顕著になり、その保全対策が急務となっています。

さらに、人口の減少や高齢化の進行等により、集落機能が低下し、農業生産活動の維持が難しくなっています。

鳥獣被害に係る情報の共有化を図り、地域と行政が一体となった鳥獣被害に強い地域づくりや侵入防止柵の設置、地域の環境整備への支援等、農作物の被害軽減の取組を進めます。

耕作放棄地に係る情報の共有化を図り、地域の実状に即した耕作放棄地の解消対策や農地の有効活用への取組を支援します。また、農地整備の推進に併せて農地の流動化を促進し、耕作放棄地の解消や発生防止を図ります。

これまでに造成された農業水利施設や農道等について、経年変化により機能が低下した施設を対象に機能診断調査を行い、計画的に保全対策を進め、持続的な生産を支える生産基盤を確保します。

農地や農業水利施設等の保安全管理、自然環境・景観・伝統文化の保全活動等、農業者と地域住民が一体となった集落活動を支援し、中山間地域における適切な農業生産活動の維持を図ります。

地域農業を支える多様な担い手の育成・強化

農業従事者が高齢化し、担い手が不足する中で、新規就農者、青年農業者、女性や定年帰農者を含めた高齢者の活動促進等の支援を行う必要があります。今後、新規就農希望者や農業への参入希望企業も増えると予想されるため、就農支援体制の整備等、就農環境づくりが急務となっています。

認定農業者においては高齢化が加速し、大幅な増加が見込めない状況にありますが、意欲ある農業者への経営、技術向上の支援が必要となっています。

特に、水稻では小規模兼業農家からの農作業受託が増加していることから、受託組織等への活動支援が必要となっています。

また、農村起業の継続と地域農業の活性化を図るために、農村起業への活動支援も求められています。

既存の地域リーダー、青年農業者、女性及びその組織活動を支援し、地域農業の担い手を育成します。新規就農希望者に対しては、関係機関等と連携し就農支援体制を整え、農業経営の自立を支援します。また、農業への参入希望企業に対しては町村等との調整活動を行います。

農村女性会議や女性組織の活動支援を通じて、女性の経営参画・社会参画とその環境づくりを支援し、農業・農村における男女共同参画を推進します。

農業経営改善計画の策定を支援するとともに、認定農業者の経営管理能力の向上を図り、効率的、安定的な経営体を育成します。

作業受託組織・集落営農組織等の取組や活動を支援し、吾妻地域の水田農業の持続、担い手確保を図ります。

農村起業の組織運営や人材育成、起業間のネットワークを活用した販路拡大を支援し、経営発展を図ります。

野菜を中心とした農産物の産地化と環境保全型農業の推進

吾妻地域では、嬭恋村や長野原町のキャベツ・レタス等の高原野菜、東部地域の夏秋ナス・雨よけトマト等の県重点品目のほか、地域推進品目であるスイートコーンやズッキーニ等、多様な野菜が生産されています。今後とも、産地間競争に対応するため、実需者が求める新鮮で安全・安心な野菜の生産体制及び低コストで鮮度保持に対応した流通体制を強化する必要があります。

また、観光果樹、切り花・宿根草、こんにゃく、米、きのこ等では、経営安定のため収益性向上に向けた取組が求められています。

農産物の安全性確保と実需者等の食品安全志向に 대응するため、GAP・有機農業・特別栽培・エコファーマー等の環境に配慮した農業の推進が求められています。

高原野菜は、実需者からの更なる信頼を得るため、品質向上と安定生産による産地ブランド力強化を推進します。また、機械化等による生産性の向上、契約取引やコンテナ出荷の拡大を支援します。

夏秋ナス、雨よけトマト等は、堆肥の利用や栽培技術向上により生産性を高めるとともに、新規栽培者を確保・育成します。また、地域推進品目であるズッキーニ等の産地化への取組を支援します。

果樹は、消費者ニーズの高い優良品種や生産安定技術等の導入、さらには観光直売等を基本に多様な流通チャネルを活用した販売を支援します。花きは、スプレーギク等の施設化による生産性の向上と、切り花・宿根草栽培の肥培管理適正化による安定栽培を支援し、産地の活性化を図ります。

こんにゃくは、緑肥作物のすき込みによる土づくりと病害発生抑制のため温湯消毒等を推進し、生産性の向上を支援します。また、米では組織育成を行うとともに、栽培技術の高位平準化等によりおいしい米づくりを推進します。きのこは、研修会等で生産性や品質の向上を推進します。

栽培履歴の記帳推進や農薬飛散防止の啓発活動を行い、さらに減農薬・減化学肥料栽培とGAPを推進し、安全・安心の産地及び農産物づくりを進めます。また、緑肥栽培と表土流失防止対策等により、環境に配慮した農業を支援します。

生産性の高い畜産経営の確立と耕畜連携の強化

吾妻地域では、比較的大規模な畜産経営体が多く、管内の農業生産額に占める割合が大きくなっていますが、飼料価格の変動等、畜産を取り巻く情勢が厳しいなか、経営の安定化を推進する必要があります。

また、堆肥の有効利用を図るため、品質の安定した良質な堆肥の生産を行うとともに、耕種農家に対して、堆肥利用の促進を図る必要があります。

さらに、家畜伝染病(口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ等)の発生については、畜産経営のみならず、地域経済に対しても多大なる損害を与えることから、家畜防疫対策の徹底を図る必要があります。

酪農については、飼料自給率向上の支援や乳質改善指導を実施し、また、繁殖肉牛では耕作放棄地を利用した和牛放牧を推進する等、大家畜での生産性の高い畜産経営の確立に努めます。

養豚・養鶏を中心とした大規模畜産経営体に対して、経営診断及び経営指導を実施することにより、畜産経営の安定化について支援します。

家畜排せつ物の適正な管理の下、耕種農家に対して堆肥成分の情報伝達を進めるとともに、耕種作物における堆肥の施用効果の検証を行い、また、耕畜連携の推進活動を実施することにより、堆肥利用の促進を図ります。

口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が発生した場合に備えて、危機管理体制を強化するとともに、鳥インフルエンザ発生予防には、定期的なモニタリング検査を実施します。また、ヨネ病、オーエスキー病等の家畜伝染性疾病の予防を徹底します。